

「マイ・ストーリー」とは、生徒一人ひとりの「自分のこれまでの学びや活動、その成果や結果に至るまでのプロセス、これからの展望」を指す。総合型選抜や学校推薦型選抜（以下、推薦型選抜）を始めとするこれからの大学入試に向けて、「マイ・ストーリー」を描き、それを語れる力を生徒に育む実践事例を紹介する。

3年次6月 受験意識・態勢の醸成

夏季休業前まで将来をじっくり考え、入試に自律して向かう姿勢を育む

島根県・私立開星中学校・高校

マイ・ストーリー 3年次6月頃の課題

- 部活動を引退して改めて進路と向き合う生徒に、大学で学びたいことを明確化させる
- 入試までに自分がすべきことを把握させ、見通しを持って実行できるようにさせる

✓ 関心のある社会課題に関する論文を読み、将来像を具体化

全国レベルの部活動が多い島根県・私立開星中学校・高校では、生徒の多くが、部活動を引退する6月頃から受験勉強を本格化させる。その時に改めて自分の進路と向き合い、悩んで相談に来る生徒に、大田毅先生は、自分の志望分野や将来像、強み・弱みを整理する「志望理由書の設計図」（左図。以下、設計図）を書くよう提案し、自己管理の第一歩として、自身の立ち位置を把握できるようにしている。その上で、入試本番までの段取り

を示すことにより、今後の見通しを持たせ、自分がすべきことを考えられるように導いている。そして、生徒に「合格まで一緒に頑張ろう」と言って励まし、マネジメントの姿勢で支援する。そうした背景には、5年前まで大学教員だった大田先生の経験がある。「大学教員は、学生には自分で研究を進めてほしいと考えています。そのため、推薦型選抜では、入学後の目標が明確か、その目標の達成に向けて取り組みたいことの筋道が成り立っているか、自律して行動する資質・能力があるかなどを見ていました。そこで、推薦型選抜志望者には、自分の志望を他者に論

理的に伝えられるようにすること、自己管理能力を育むことが重要だと考えました」設計図を基に「マイ・ストーリー」を描く際には、論文を活用する。例えば、医療分野を志望する生徒に、「今、日本の医療が抱える課題は何だろう」と問いかけ、在宅看護や救急医療など、生徒が挙げた課題に関する論文を6本程度読むように伝える。大田先生は、論文の検索方法を説明するが、実際に探すのは生徒自身で、論文を読んで考えたことは期日までに報告させるようにしている。大田先生が、高校生が読みやすい論文を探して渡すこともあるが、それは2本程度にとどめている。「論文を読めば、その分野の今の課題や大学の研究成果を詳しく知ることができ、生徒が将来像を描く上で有力な情報になります。また、研究機関である大学を志望する以上、研究者としての意識を持つてほしいと思います」、論文は生徒自身に探してもらっています」大田先生は、そこまでの過程に約1か月間をかけ、生徒はじっくり「マイ・ストーリー」を練ってから志望理由書の作成に入る。いきなり書き始めると、内容が表面的で、書き直すうちに生徒のやりたいことが変わり、その軌道修正にかえって時間がかかるからだ。「論文等で志望分野に関する情報を蓄え、考えを深めていくうちに、生徒は自律していき、私が何も言わなくても、志望理由書ができたから添削してほしいと見せに来ますし、書けなければ相談に来ます」

✓ 基本の2000字に肉づけする方法で、具体的な志望理由書に

志望理由書は、まず2000字で、自身の体験に基づきながら、大学で取り組みたいことと、それに組み込みたい理由を、将来像とのつながりとともに書く。その上で、志望校が指定する文字数に合うよう、具体例で肉づけし、表現を洗練させていく。「具体例は、自分の思いと、それを実現するための行動とセットで書くことと伝えていきます。例えば、地域活性化に向けて、高齢者にとっては持続可能で、若者にとっては取り組みやすい農業を実現したいと考えた生徒は、スマート農業（*）に着目し、それを地域に適合した形にするため、農業の環境整備を研究したいと、志望理由書や面接でアピールして、島根大学生物資源科学部に合格しました」

大田先生は生徒との対話で、「どう考えたのか」「なぜそう思ったのか」と聞き、生徒が思いや理由を具体化できるようにしている。志望理由書の添削でも、「どういう意味？」ではなく、「ここは分かるけれども、この部分は伝わりにくい」などと、改善点を具体的に示す。9月からは、「面接で伝える内容を志望理由書を基に練っていく。明確化した将来像と蓄えた専門知識を組み合わせることで、生徒は自分の考えを堂々と述べられるようになる」といふ。大田先生が支援した20年度の3年生は、筑波大学や広島大学の推薦型選抜の合格者を同校で初めて出し、国公立大学に過去最高の10人、4年制大学全体では110人が合格した。「21年度からは、私個人で行っていた『マイ・ストーリー』を軸とした進路指導を全校で行おうと、3年間の計画を立てました。今後、試行錯誤をしながら改革を進めていきます」

支援で気をつけている点

- 生徒がまず、自身の状況を把握できるようにする（「志望理由書の設計図」の記入）
- 生徒が相談に来てから約1か月間は、生徒が自分を知り、志望大学・学部・学科を知る期間と捉える（将来像や大学で取り組みたいことが具体化しないうちに、志望理由書を書き始めない）
- 生徒に課題を出すのではなく、生徒が入試までにすべきことと、その期日を考えられるよう支援。入試本番までをマネジメントするというスタンスで接する
- 生徒に否定的な言葉は投げかけない。生徒が相談に来た時期が8月であっても、「ぎりぎり間に合った。今から一緒に頑張ろう」などと、意欲を喚起する

「志望理由書の設計図」の記入項目

- その学部（学科・コース）を希望する理由
- その大学（学校）を希望する理由。その大学（学校）でなければいけない理由。アカデミック、アドミッション、カリキュラム、ディプロマの各ポリシー
- 学習したい内容（興味を持った学修内容や大学教員の研究）
- 将来のビジョン
- 将来のビジョンと学習したい内容が重なる点
- 自己PR。長所（自分が思う範囲でOK）が何か。同級生、先輩（教師や自分より年上の大人）、後輩（自分より年下）から、それぞれどのように評価してもらえていると思うか
- 高校時代で一番頑張ったこと（経験）
- その経験の中で、身についたこと（向上したこと）
- この1年間で気になったニュース2つ

※学校資料と取材を基に編集部で作成。



高校2年部学年主任
学習進路部
大田 毅
おおた・たけし

教職歴4年。同校に赴任して5年目。理工系学部で10年間、助教等を勤めた後、高校教師に転身。

学校概要

- ◎設立 1924（大正13）年
- ◎形態 全日制／普通科／共学
- ◎生徒数 1学年約150人
- ◎2022年度入試合格実績（現浪計） 国公立大は、鳥取大、島根大、愛媛大、横浜国立大、島根県立大に7人が合格。私立大は、東海大、東洋大、日本大、立教大、京都産業大、立命館大、関西大、近畿大、甲南大、広島修道大などに延べ74人が合格。

開星中学校・高校が行う生徒を自律に導く進路指導の詳細と、現在推進中の進路指導改革を、ウェブサイトで紹介しします。

VIEWnext ONLINE

* ロボット技術やICTを活用して、農作業の省力化・精密化、高品質生産の実現などを推進している新たな農業のこと。